

波照間島方言のアクセント体系

崎村弘文*

A New View on the *Accentual* Systems of
the Japanese Dialects in Haterumajima

Hirofumi SAKIMURA*

Abstract

This paper attempts to show that the Japanese dialects in Haterumajima are tone-languages which have 2 types of pitch-pattern on their prosodical unit and are not pitch-accent languages like the Tokyo-dialect as they have been generally regarded. We can find out the same fact on the dialect of Shiraho hamlet in Ishigakijima—the hamlet known to have been settled by a forced immigration from Haterumajima in the 18th century.

Key Words: Japanese dialects, Haterumajima, Tone-languages

0. はじめに

0-1 本稿は、波照間島（沖縄県八重山郡竹富町）南方言・石垣島（同県石垣市）白保方言のアクセント¹⁾について生成アクセント論的観点から考察し、それらが2型²⁾の体系を持つものである旨明らかにせんとするものである。これは、筆者がこの数年行ってきた一連の考察＝琉球諸方言が基本的に全て<n型アクセント体系>を持つ旨明らかにしようとの＝に連なるものである。

両方言のうち、前者は日本最南端の方言として南方と関わり如何が注目されているものであり、後者は18世紀に波照間島住民の強制移住により成立したもので、比較方言学的観点から前者との異同³⁾が注目されるものである。

琉球西部の諸方言、即ちいわゆる先島諸方言は、与那国島方言を除けば一般に無声子音の

*鹿兒島大学教養部

Laboratory of Literature, College of Liberal Arts, Kagoshima University, 21-30, Korimoto 1-Chome, Kagoshima, 890, Japan.

出気が強い性格＝「有気化傾向」＝を持ち、琉球東部の喜界島・奄美大島・徳之島等の諸方言が喉頭化音の発達に伴う「無気化傾向」を持つのと実に対照的である。その性格によって、無声子音に続く母音（さらには、それに続く鼻音・弾き音まで）が無声化されるほどであるが、その結果、調値を担うものとしての語形に不安定さを生じ、琉球東部諸方言よりもさらに進んだ調値変化→調値の多様化と調類区別の簡素化を招くこととなる。両方言についても、それらのことがらは明確に認められる。

0－2 本稿を成すに際して、以下の方々に話者として御協力頂いた。勝連文雄（1917生・波照間島南在住）／米盛一雄（1911生・白保在住）・大道正昇（1901生・同）。

1. 波照間島南方言のアクセント

1－1 波照間島南方言はモーラ方言で、次のようなアクセント体系を持つ⁴⁾。

	1 M	2 M	3 M	4 M
a 類	●○～●▷	●○～●○▷	●○○ ~ ●○○▷ ●○○○~ ♪ ○●○ ~ ○●○▷	●○○○～●○○○▷ ○●○○～○●○○▷
b 類	○○～○▷	○○ ~○○▷ ○● ~○○▷ ○●▷ ○●○~ ♪ ○●○~ ♪	○○○ ~○○○▷ ○○○~ ♪ ○○● ~○○○▷ ○○●▷ ○○●▷ ○○●○~ ♪ ○○●○~ ♪	○○○○～○○○○▷ ○○○○●～○○○○▷
	5 M	6 M	...	
	●○○○○ ~ ●○○○○▷ ●○○○○○~ ♪ ○●○○○ ~ ○●○○○▷	(●○○○○○～●○○○○○▷)	...	
	○○○○○～○○○○○▷	○○○○○○○～○○○○○○○▷ ○○○○○○●～○○○○○○○▷	...	

甚だ多様な異調値が現われる体系であり、その全てを上表に示すことはできない。詳しくは、別表1を参照されたい⁵⁾が、残余の調値を含め、調類～調値の関係規定はほぼ次のように立てられる。

a 類：語句の第1モーラ高。3モーラ以上の語で第1モーラ母音が無声化している場合は、第2モーラ高。

b 類：語句の全モーラ低、または、末尾モーラ高（後者の付属語接続句形については、「語・

句の末尾モーラともに高」でも可)。

※南方言では、多くの語について、沖永良部島方言等と同様、本来-CVであるはずの語末モーラを引き-CVVとする現象が見られる(上表各欄二段以下に後者のかたちを示す)。これは、現在、下記のようなアクセント変化が起きつつあるのに伴って生じたものと見られる。それらの語が、付属語・付属形式の接続したかたち(=被覆形)で-CVとなる事実は、その見方を裏付ける有力な一証と云えよう。

a類: ○...●>●○...○ (ほぼ完了) / b類: ○...●>○...○

※弁別対 minimal pairs は、次のように認められる。

a類 ●○~●○▷牛	[usi]	b類 ○○~○○▷白
名	[naN]	波
石	[isi]	息
米	[meɜ]	前
櫛	[hutsi]	○●~○○▷口

なお、b類○○~○○▷と同○●~○○▷についても、或るいは弁別対かと思わせる次のような例が存在するが、そのように認めるには問題が有る。

○○~○○▷肉 [si si] ○●~○○▷煤

(「煤」の方に島外語よりの最近の借入ではないかとの疑いが有り、話者がその語形・調値に自信を持ってない。)

他は、いずれも、多少とも調値以外の弁別要素を持つものである。

	1 M	2 M	3 M
a 類	●○~●○▷▷	●○ ~ ●○▷▷ ●○○ ~ " ●○●○~ "	●○ ~ ●○○▷▷ ●○○○~ " ●○●○~ "
b 類		○○ ~○○▷▷ ○○○~" ○● ~ " ○●○~ "	○○○ ~○○○▷▷ ○○○○~" ○○● ~ " ○○●○~ " ○●○ ~ "

4 M	5 M
●○○○ ~●○○○▷▷ ●○○○~" ●○○●~"	●○○○○ ~●○○○○▷▷ ●○○○●○~"
○○○○ ~○○○○▷▷ ○○○●~"	○○○○○ ~○○○○○▷▷ ○○○○○~" ○○○○○~" ○●○○○~"

6 M	…
●○○○○○～●○○○○○▷▷	… … …
(○○○○○○○～○○○○○○○▷▷)	… … … … …

2. 石垣島白保方言のアクセント

2-1 白保方言もやはりモーラ方言であり、上記のようなアクセント体系を持つ⁴⁾。

これもまた、多様な異調値が現われる体系であり、その全てを上表に示すことはできない。詳しくは、別表2を参照されたい⁵⁾。調類～調値の関係規定は、ほぼ次のように立てられる⁶⁾。

a類：語句の第1モーラ高（2モーラ以上の語では、「語の第1モーラ・末尾モーラ高→句の第1モーラ高」とも）。

b類：語句の全モーラ低（「語の末尾モーラ高→句の全モーラ低」とも）。

※白保方言でも、多くの語について、本来-CVであるはずの語末モーラを引き-CVVとする現象が見られる（上表各欄二段以下に後者のかたちを示す）。その背景については、上記南方言の場合と全く同様に考えることができる。

※白保方言では、1モーラ語について1型化が起こっており、b類の語例を見出すことができない。

※弁別対 minimal pairs は、次のように認められる。

a類 ●○～●○▷▷星 [pu'so▼] b類 ○●～○○▷▷へそ

このほかに、

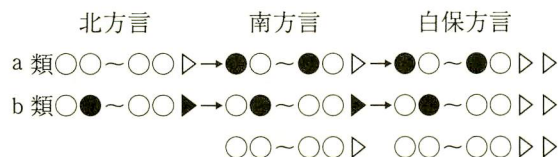
牛 [usi] [uʃi] ○○～○○▷▷白
綿 [bata▼] [bata] 腹

といった例が見出だされるが、いずれも、厳密な意味で弁別対と認められるものではない。この弁別対の少なさは、1モーラ語の1型化とならんで、a・b両類の区別が次第に曖昧化しつつあることを示すものであろう。

3. ま と め

3-1 1・2より、波照間島南方言・石垣島白保方言が2型アクセントの方言であることは明らかである⁷⁾。

3-2 なお、平山輝男ほか1966に見える波照間島北方言のアクセント体系と比較してみると該方言と両方言との間に次のような系譜関係を認めることができる。



【注】

1. 「音調」ないし「語声調」と称するのが適当であろうが、暫く慣用に従う。以下同様。
2. 調類と称するのが適当であろうが、暫く慣用に従う。以下同様。
3. 本稿では、アクセント体系の実態と系譜関係についてのみそうした考察を行ない、語形その他については別稿に譲る。
4. () を付した調値は、今回の調査では確認することができなかった。
5. 今回は、紙幅の関係上、名詞の調値のみ示し、他については全て別稿に譲る。
6. なお、a・b 両類の語若干が「語の末尾から 2 番目のモーラも高、または、該モーラ・末尾モーラも高」の調値を取るものが有る（南方言にも同様の傾向有り）。調値の変化に関わるものと思われるが、なお精査を期したいと思う。
7. 石垣島白保方言については、2 型から 1 型へ移行しつつあるとするのが、さらに的確な把え方であろう。平安時代末期中央語の調類区別と比較してみた場合、琉球東部諸方言ほどきれいな対応を見せないのは、その結果と思われる。

【参考文献】

(1) 著書

- 平山輝男・大島一郎・中本正智 1966. 琉球方言の総合的研究. 465頁, 明治書院, 東京.
 ————— 1967. 琉球先島方言の総合的研究. 557頁, 明治書院, 東京.
 外間守善(編) 1972. 沖縄文化論叢 5 / 言語編. 530頁, 平凡社, 東京.
 飯豊毅一・佐藤亮一・日野資純 1984. 講座方言学10 / 沖縄・奄美の方言. 525頁, 国書刊行会, 東京.
 金田一春彦 1975. 日本の方言. 273頁, 教育出版, 東京.
 金田一博士古稀記念論文集刊行会(編) 1984. 金田一博士古稀記念論文集 1 / 国語学編. 516頁, 三省堂, 東京.
 中本正智 1976. 琉球方言音韻の研究, 478頁, 法政大学出版局, 東京.
 ————— 1981. 図説琉球語辞典. 463頁, 力富書房, 東京.
 宮良當壮 1980. 八重山語彙甲篇. 642頁, 第一書房, 東京. (1925原刊)
 ————— 1981. 〃 乙篇. 382頁, 第一書房, 東京. (1925原刊)
 仲宗根政善先生古稀記念論集刊行会(編) 1982. 琉球の言語と文化. 629頁, 仲宗根政善先生古稀記念論集刊行会, 東京・沖縄.
 柴田武(監修) 1972 a. 全国方言資料10 / 琉球編 I. 376頁, 日本放送出版協会, 東京.
 ————— 1972 b. 全国方言資料11 / 琉球編 II. 357頁, 日本放送出版協会, 東京.

(1987年 6月15日 受付)

別表 1：波照間島南方言のアクセント

【名詞+いわゆる主格助詞ヌの～】

○ ~○▷		舌[sɨta]	3	汗[(?)aʃiː] *	
○○~〃		陰[keɜː]	5	雨[(?)amiː] #	
しらが[sʰsɛ]		夫[butu]	形	声[kui]	
孫[(?)maː]		井戸[kɛː]		鍋[nabi]	
		歛[peɜː]		眉[maju]	
●○~●▷		米[mɛː]		婿[mugu]	5
血[dzɨː]	1	長兄 ₁ [buʃa]		額[hutɛʔ] #	
木[kiː]	2	妻[tuN]		すもう[sapaː] *	形
汁[suː]		箸[(?)masɨ]		かんな[kanaː] *	
乳[dzɨː]	4	肘・膝[pɨsa]		昨日[sɨnɔwː] *	頭
髪[kiː] (毛)		右[nɛɰi]		命[nutsɨ]	命
祖母[paː]		胸[nɨʃɨ]		戸[jadu]	
		あなた・おまえ[daː]		身 ₁ [duː]	
				斧[bunɔ]	
●○~●○▷		○● ~○○▷		顔[mutʃi]	
蠶[atɨː~atʰɨː]		○●▷		塩[masu]	
牛[usɨ]		○●○~〃 *		祖父[buja]	
風[katʃi]		○●●~〃 #		泥[duɰu]	
釘[huN]		口[huʃɨ]		肉[sɨsɨ]	
竹[taki]		鳥 ₁ [tuɰi]		庭[miːnaː] *	
爪 ₁ [ʃimi(?)]		鼻[panaː] #		紐[juɰu] (細)	
蠟[peɜː]		冬[huɨ(?)]		夜[juɰu]	
箱[paku]		嫁[jumi]	1	踵[adu]	
側 _{uɰ} [pata]		紙[kapiː] *		着物[sɨnu]	
蜂[patsɨ]		旅[tapiː] *		言葉[muni]	
髻[pigi]		旗[pataː] *		砂糖[sata]	
へそ[putsu]		村[muɰa]	2	わたし[banɔ]	
星[putsɨ]		(眼[miːN])	3	太陽[sɨna(?)~sɨna ^(t)]	
水[miɰzɨ]		腕[uɰziː] *		○○ ~○○▷	
道[mitsɨː~mitsɨː]	1	瓶[kamiː] #		○○○~〃	
名[naN]		物[munu]		腰[kutsɨ] (?)	1
葉[paː]	2	山[jama]	3	手[ʃiː]	
石[isɨ]		跡[atuː] *		湯[juː]	3
歌[uta]		糸[itu]		網[aN]	
音[utu]		種[tɨniː] *		池[igi]	
夏[natsɨ]	2	舟 ^(p) [funi]	4		
櫛[hutsɨ]					

犬[inu]	●○○ ~ ●○○▷	涙[naNda]	
色[iɾu]	●○○○ ~ "	ほうき[pottsɨ]	命
親[^(?) uja]	甥・姪[buiɾa ⁻]	みみず[mimɨ ^d zɨ]	兎
神[kaN]	いとこ[itɨihu ⁻]	鯨[ku ^d zɨɾa]	兜
草[hutsa]	光 ₂ [agaɾɨ]	身 ₃ [gu ^t teɾ:~ku ^t teɾ:]	
島[sim̄a]	よだれ[judaɾɨ]	海[inaga ⁻]#	
綱[sina]	老人[usɨtu]	酒[guɨN]	
時[tukɨ]	●○○○ ~ ●○○▷	あくび[naubi] (?)	
年[tusɨ]	大人[bupitu]	子指[kutsɨbja]	
波[naN]		(人差指[taka ⁻ bi])	
墓[paka]	○○○ ~ ○○○▷	○○○ ~ ○○○▷	
花[pana]	○○○ ~ ○○○▷*	○○○○○ ~ "	
豆[mami ⁻]	煙[kipusɨ]	馬[maN]	
夢[imi]	垢[hutaɾɨ]	雲[hūmōN]	3
綿[bata]	あご[hakotsɨ]	形[katatsɨ]	形
息[isɨ]	帯[sɨkubi]	はさみ[patasN]	
板[ita]	ごみ[huku ^d zɨ]	光 ₁ [pikaɾɨ]	頭
白 ₁ [usɨ]	男[bidumū]*	左[pinaɾi]	兎
数[ka ^d zu]	蔓[katsiɾa]	葉[hutɨiɾɨ]	兜
肩[kata]	たばこ[takabu]マ	子[^(?) utama]	
隅[suN]	長兄 ₂ [səkōsɨ]	(岩[bu ⁻ isɨ])	
中[naga]	禪[sanɛɾ]	おじ[buzama ⁻]	
針[paɾi]	4	杖[gusaN]	
前[mɛɾ]	5	月[sɨkɛN]	
(俵[ta ⁻ ɾa])	●○○○ ~ ●○○▷	母[abua]	
油[aba]	おば[bubama]	指[ɨimbi]	
脚[paN]	からす[gaɾasɨ]	次兄[nakaɨa ⁻]	
兄[ɨama]	○○○ ~ ○○○▷	姉妹[bunaɾɨ]	
姉[ama ⁻]	身 ₂ [kaɾa ^t ta]	畑[pitɛɾ]	
煤[sɨsɨ] (?)	女[midumu]	兄弟[bigiɾɨ]	
父[ija]	親指[bu:bi]	弟妹[ututu]	
土[^d zɨɾ:]	○○○ ~ ○○○▷	●○○○ ~ ●○○▷	
咽[nudu]	○○○▷	踊り[buNduɾɨ]	形
腹[bata]	○○○ ~ " *	爪 ₂ [ɨiNɨimi]	
長姉[boma ⁻]	○○○ ~ " #	虹[no: ^d ziN]	
	印[sɨɾusɨ]	牝牛[buinaN]	
	明日[^(?) attsas ⁻] *	手のひら[ɨinupisa]	
		形	
		頭	

●○○○~●○○○▷
背 [iʃiːnaga]

◎●○○~◎●○○▷
秋 [ssaNtsi]

○○○○ ~○○○○▷
○○○○○~ "

白₂ [pik+iusi]
次姉 [nakammaː]
雀 [miʃuduɾi]

◎○○○~◎○○○▷
鳥₂ [tupituɾi]

●○○○~●○○○▷
あなたたち、おまえたち
[daima:]

●○○○~●○○○▷
わたしたち [baima:]

○○○●~○○○○▷
頼み [tanumuN]
若者 [bagamunu]

◎○○●~○○○○▷
牡牛 [kuttse:]

○○○○~○○○○▷
鏡 [kaŋaŋ]
首 [nubis+iN]
春 [uɾu^dziN]
枕 [maffa:]
蛙 [ʔotta:]
ねずみ [ujaNtʃu]
天井 [ʃiN^dʒo:]

頭

○○○○~○○○○▷
初め [pasimaɾi]
はだし [kaɾapaN]

●○○○○ ~●○○○○▷
●○○○○○~ "

腿 [muNdaɾas+i]
薬指 [daNsipiɾa]
息子 [biduNtamaː]
娘 [miduNtamaː]
末兄 [SamaNtama]
このあいだ [kuNtabaɾu]

◎○○○○ ~◎○○○○▷
◎○○○○○~ "

裸 [abadaɾas+i]
末姉 [amaNtamaː]

○○○●●~○○○○▷
虫 [musiNtama]

○○○○○~○○○○▷
頭 [amasikuɾu]

○○●○○~?
尻 [ʃipiːtabuni]

○○○○○●
~○○○○○▷
耳 [miʃikurumiN]

○○○○○●
(~○○○○○▷)
中指 [takaNsipiɾa]

○○○○○●
~○○○○○▷
腫物 [nibuttaga:]

別表2：石垣島白保方言のアクセント

【名詞+いわゆる主格助詞ンドゥの～】

●○～●▷▷		歌[uta]		わたし[banw ⁻]	
●○▷▷		音[utu]			
●○～●▷▷		夏[naʃɯ̄ ⁻]		●○●○～●○▷▷	
血[dzɯ̄ ⁻]		村[muɾa]	2	◎○●○～〃*	
紐[buː] (緒)	1	(眼[mi ⁻ N])	3	豆[ma ⁻ mi ⁻]	
木[kiː]		網[aN]		山[ja ⁻ ma ⁻]	
名[naː]		波[naN]	3	物[mu ⁻ nu ⁻]*	3
葉[paː]	2	汗[aʃi ⁻]		○●～○▷▷	
蠟[pɛː]	2	雨[ami ⁻]		○●○～〃	
手[ʃiː]		側 ₁ [supa]		風[kəʃi ⁻]	
湯[juː]	3	中[naga]	4	口[hutʃi ⁻]	
汁[suː]		腿[momu ⁻]	5	酒[saki ⁻]	
乳[ʃɯ̄ ⁻]	4	夫[butu]	形	底[suku ⁻]	
陰 ₁ [kɛː]	5	戸[jadu ⁻]		竹[taki ⁻]	
井戸[kɛː]		脚[paN]		鳥[tuɾu ⁻]	
米[mɛː]		甥・姪[bui]		箱[paku ⁻]	
土[dzɯ̄ ⁻]		陰 ₂ [oja ⁻]		鼻[pana ⁻]	
孫[maː]		靴[huja]		へそ[pu ^t so ⁻]	1
しらが[ʃɛː]		腰[buʃa]		紙[kapi ⁻]	
あなた・おまえ[daː]		尻[ʃipi ⁻]		旅[tapi ⁻]	
		隅[jugu]		旗[pata ⁻]	
●○～●○▷▷		父[ija]		肘[piʃɯ̄ ⁻]	2
●○○～〃		妻[tuN]		犬[inu]	
蠟[atɯ̄ ⁻]		肉[sɯ̄sɯ̄ ⁻]		色[iɾu ⁻]	
牛[usɯ̄ ⁻]		咽[nudu]		腕[udi ⁻]	
釘[huN]		腹[bata ⁻]		瓶[kami ⁻]	
袖[ʃuti ⁻]		(右[nɛ ⁻ ɾi])		櫛[huʃɯ̄ ⁻]	
蜂[pa ^d zɯ̄ ⁻ ～Fa ^d zɯ̄ ⁻]		胸[nni ⁻]		舌[ʃita]	
髻[pinɛ̃ ⁻]		●○●○～●○▷▷		鳥[sɯ̄ma ⁻]	
冬[huju ⁻]		鍋[nabi ⁻]	3	綱[sɯ̄na ⁻]	
星[pu ^t so ⁻]		命[nuʃɯ̄ ⁻]		時[tuki ⁻]	
水[mɯ̄dzɯ̄ ⁻]		(涙[na ⁻ da ⁻])	命	年[tuʃɯ̄ ⁻]	
道[miʃɯ̄ ⁻]		垢・煤[gaba ⁻]		墓[paka ⁻]	
虫[muʃi ⁻]		斧[bunw ⁻]		花[pana ⁻]	
嫁[jumi]	1	塩[masu ⁻]		夢[imi ⁻]	
石[iʃi]					

跡 [atu]		砂糖 [sata]		○○○ ~ ○○○▷▷	
息 [isɨ̄]		母 [abo(˘)]		○○○ ~ ○○○▷▷*	
糸 [itu]	3			雲 [kumun]	3
肩 [katā]		●○○ ~ ●○○▷▷		形 [kātaɨ̄ɨ̄]	
種 [tanī]		●○○○ ~ "		煙 [kijusī]	
針 [pāɕī]		踊り [buduɕī]		印 [ɕīɕusī]	
舟 [funī]		よだれ [judaɕī]	形	初め [hāɕimī]	形
松 [matsī]	4	子〔(?)utamā]		はさみ [pātsaN]	頭
声 [kuī]		歟 [kānaɕɛ̄]		あご [hākwɨ̄ɨ̄]	
箸 [patsī]		庭 [minaga]		帯 [sɨ̄kubī]	
眉 [majū]		前 [meNta]		月 ₁ [sɨ̄kiN]*	
婿 [mugū]	5	あくび [akubi]		蔓 [katsīɕa]	
すもう [sɨ̄mā]	形	牡牛 [biusī]		鎖 [hɨ̄saɕī] (新)	
かなな [kānā]		蛙 [otta]		たばこ [tāaku]	
昨日 [sɨ̄nɔ̄]	頭	姉妹 [bunaɕī]			
油 [abā]		額 [huteN]		○○● ~ ○○○▷▷	
側 ₁ [azā]		枕 [maɕɕā]		○○●○ ~ "	
泥 [duɕū]		兄弟 [bigitī]		○○●● ~ " *	
(夜 [jūɕū])				明日 [attsā]*	
踵 [adu]		●○○○ ~ ●○○▷▷		言葉 ₂ [kutubā]	
着物 [sɨ̄nɔ̄]		●○○○ ~ " *		頼み [tanumī]	
太陽 [ɕita]		流れ [na:ɕī]	頭	光 [pīkaɕī]	頭
禪 [sānɛ̄]		みみず [mimāɕī]	兎	葉 [hūɕīɕi]	
		鯨 [gūɕīɕā]	兜	棒 [tsupakī]	兜
○○ ~ ○○○▷▷		海 [inagā]		姉 [ammā]	
○○○ ~ "		祖父 [buzasā]		親 ₂ [ujaɕā]	
池 [igi]		祖母 [buamā]		側 ₃ [supaɕa]	
馬 [ma]		指 [ɕinubī]		いとこ [itɕihū] *	
親 [uja]		(大人 [būɕɕitū])		畑 [pitegī]	
神 [kaN]		女 [midumɔ̄]		親指 [bu:bī]	
草 [hutsa]		からす [gaɕaɕī]		長姉 [honnā]	
綿 [bata]	3	言葉 ₁ [mūnī]			
板 [ita] (新)		子指 [gubɛmā]		○○○ ~ ○○○▷▷	
臼 [uɕī]	4	中指 [nagabī]		○○○ ~ "	
(俵 [tāɕa])	頭	老人 [uɕɕitū]		ほうき [po:ɕī]	命
兄 [ɕama]		長兄 [buɕamā] *		左 [pītaɕī]	兎
おじ [buɕa]		わたしたち ₁		身 [kaɕāta]	
(おば [būā])		[bɛ:ma:] (古)		髪 [hamaɕī]	
顔 [mɔ̄tɕī]				ごみ [hukūɕī]	

兄弟 [SaNdaː]	●○○○○~●○○○○▷▷	●○○○○○
○◎◎~?	男? [biduNtama]	~●○○○○▷▷
(杖 [guːsaN])	娘 [miduNtama]	あなたたち・おまえたち ¹
●○○○~●○○○▷▷	●○◎○○○	[dɛ:maNda:]
虹 [nu:ːdzɪN]	(~●○○○○▷▷)	あなたたち・おまえたち ²
裸 [abadaɽi]	このあいだ [ʃunubutuʃɪː]	[daimaNda:]
●○○○◎~●○○○▷▷	●○○○●○	わたしたち ² [bɛ:maNda:]
天井 [tiNːʒo:]	~●○○○○▷▷	●○○○●●
●○○●○~●○○○▷▷	腿 [mɔmuːtaɾaʃiː]	(~●○○○●●▷▷)
腫物 [nubutagaː]	○●○○○	耳 [misikuɾumiN]
若者 [bagamunuː]	~○●○○▷▷	
●○●● (○●○○▷▷)	岩 [iʃigammaː]	
首 [nubɪʃiN]	○◎○○○~○○○○▷▷	
○●○○~ (○○○○▷▷)	月 ² [sɪkiNju:]	
膝 [supusɪN]	○○○○◎	
はだし [ɲnapan]	~○○○○▷▷	
○○○●○~○○○○▷▷	雀 [sɪːnahituɽiː]	
次姉 [nakammaː]	弟妹 ² [ututuNdaː]	
次兄 [nakaʃamaː]	○○○○○~○○○○▷▷	
ねずみ [ujeNtʃuː]	頭 [amasɪkuɾu]	
(手のひら [ʃiːnupɪsaː])	末兄 [aʒaNtama] (新)	
○○○●●		
(~○○○○▷▷)		
末姉 [ammamaː]		
○○○○~○○○○▷▷		
鏡 [kaNɕaN]		
春 [uɾuːdzɪN]		